

オリックスは、世界経済の不透明感が強まる環境下においては、慎重に経営の舵をとっていくことが重要であると考えています。一方で、環境変化から生じるビジネスチャンスに挑戦し、新たなノウハウを蓄積することで次の成長への可能性を探る必要があります。

オリックスはこれまで、二度のオイルショックやバブル経済の崩壊といった急激な経済環境の変化を乗り越え、さらなる利益成長を果たしてきました。環境変化のもとでの経営の舵取りの確かさを支えてきたのは、“新しい価値の創造を目指す”企業理念です。

本年次報告書の特集では、オリックスが「お客様」「ビジネスパートナー」「社会」に対して、どのような価値を生み出し、中長期的な成長を図ろうとしているかについてご説明したいと考えています。

Reliability in a Challenging Environment

Creating Value for Clients

Creating Value for Business Partners

Creating Value for Society

How ORIX Is Creating Value **for Clients**

専門性、先進性、チームプレーを活かしてお客様に価値あるサービスの提供を

オリックスは、1964年に法人向け設備リースを主な事業として誕生しました。その後時代とともに、お客様のニーズも変化し、それに応じて法人向け融資やノンリコース・ローンなどのデット型ビジネス、プリンシパルインベストメントやオフィスビルの開発といったエクイティ型ビジネス、さらにはM&Aアドバイザリーなどのソリューション提供サービスなど、専門性を追求しながら事業を展開してきました。

“情報力、機動性、多様な金融サービスに期待します”



株式会社ヤマダ電機
取締役兼執行役員専務
唐沢 銀司 様

当社はロードサイド型店舗をはじめとする多様な店舗戦略を展開しています。市場規模と商圏を見極めて店舗開設を進める際は、オリックスの全国規模の不動産情報を大いに活用させていただいています。加えて、建物賃貸借取組を活用することで機動的な出店が可能となっています。これまでのロードサイドへの出店に加え、今後は、大都市圏への都市型店舗も積極的に展開していく予定です。こうした新しいチャレンジにおいても、オリックスの情報力、機動的な対応、多様な金融サービスの提供に期待しています。

ロードサイド店舗を展開するお客様を支援する

オリックスでは、建物資産をお客様に代わって建設し、賃貸する建物賃貸借取組を積極的に行っています。オリックスの持つ全国ネットワークを活かして各地の不動産情報を蓄積し、お客様の出店ニーズに合わせた立地を紹介するなど情報提供力で差別化し、本事業を推進しています。

出店意欲の旺盛なお客様にとっては、自ら建物を建設する場合と比較して、現金支出は保証金相当額で済み、初期費用を大幅に削減することにより出店を加速できる取り組みです。

また、店舗設備のリースで培ったノウハウを活かし、商業施設や飲食店、ホテル、結婚式場、温浴施設など、さまざまな集客施設を開発し、集客力のある専門店を誘致することで、お客様の店舗の競争優位性を高めるご提案をしています。

お客様自らが建物を建てて賃貸する場合は、テナントのために建設協力金を立て替えるなどのファイナンス面でのソリューションを提供するなど、「オリックスならではの」付加価値をつけて、お客様の事業展開を支援しています。



大型商業施設「クロスガーデン前橋」(2009年4月開業予定)

「クロスガーデン前橋」は、オリックス・アルファが取り組む複合型商業施設の建物賃貸借取組。敷地面積約55,000m²、駐車場約1,300台分を敷設した大規模なショッピングセンターには、(株)カスミや(株)ユニクロを核とした、食料、衣料、スポーツ用品など、約50店舗のテナントを誘致する予定です。

お客様の「人とクルマのコンプライアンス管理」を支援する

自動車リース、レンタカー、カーシェアリング事業を手掛けるオリックス自動車は、2008年3月末現在、61万6千台の車両を管理しています。なかでも、法人向け自動車リース事業では、スケールメリットや全国を網羅するメンテナンスネットワーク、クオリティの高い車両管理サポート体制により、「コスト管理」「車両情報管理」から「リスクマネジメント」「環境対策サポート」など、お客様の車両にまつわる課題を解決するための付加価値サービス・商品をご提供しています。

昨今、企業がクルマを使用する際、コンプライアンスを重視する姿勢が求められているのは周知のとおりです。オリックス自動車では車両管理はハード(車)+ソフト(人)の両面、つまり「人とクルマのコンプライアンス管理」が重要であり、さらにコンプライアンスには、「環境」に配慮した観点が必要であるとの認識から、「自動車と環境」についてのご提案や、情報のご提供を行っています。

* テレマティクス サービスとは、通信(テレコミュニケーション)と情報処理(インフォマティクス)を組み合わせた造語で、自動車向けの次世代情報提供サービスです。「オリックス テレマティクス サービス」では、通信機能やGPS機能を備えた専用の車載装置を搭載することにより、走行距離、燃費、CO₂排出量などのリアルな走行データを取得することができます。これらの情報を環境対応、コンプライアンス管理、安全運転体制、車両保有の最適化などにお役立ていただけます。

“車両管理業務の効率化を図っています”



日本ロレアル株式会社
ビジネス サポート センター
フィールド&ファンリティ センター
佐藤 浩志 様

現在、営業用車両として全車をリース導入し、オリックス自動車の給油カードやETCカード、インターネット車両管理システムを活用することで、車両管理業務の効率化を図っています。さらに、2007年9月からは営業用車両に「オリックス テレマティクス サービス*」を導入しました。当初の目的は、運転日報の自動作成による労務管理の効率化でしたが、その後“危険挙動情報のメール配信機能”により、急加速や急ブレーキ、速度超過などの情報をリアルタイムに責任者が把握することで、危険運転者への抑止力効果が出ていることが分かりました。まさに、車を介した労務管理と言えますが、当社では管理者側からの「監視」ではなく、運転者自身の「自己管理」や「自己抑制」を喚起するものと捉えています。テレマティクスのさまざまな機能を、当社ではまだ活用しきれませんが、今後は環境問題に対する対策として、“エコ運転診断”を活用し、エコドライブの推進などにも役立てていきたいと考えています。

インドネシアにおける現地に根ざした事業展開

PT. ORIX Indonesia Finance(以下ORIF)は、現地のお客様の多様なニーズに合わせたファイナンスを提供することをモットーとしています。お客様はほぼ全業種にわたる企業や事業主で、主に設備投資にかかる資金ニーズに対し、業界および取扱物件についての深い専門知識を縦軸に、さらにオリックスが有する国際的なネットワークを横軸に、チームワークを活かした柔軟なソリューションを提供することを得意としています。

設立以来33年になりますが、顧客層は中小企業から多国籍企業まで幅広く、中小企業のお客様のなかには2代にわたってお取引している先も多々あります。先代との車両一台のリース取り組みから、次世代経営者と大型プロジェクトの投資に至るまで、パートナーとしてともに発展してきました。

最近では上場を目指している、あるいは透明度の高い経営を目指している若手経営者に、ニューヨークに上場しているオリックスとして、環境への配慮やサーベンス・オクスリー法についてのアドバイスを提供し、その持続的な成功と発展を応援しています。今後も、インドネシア発のグローバル企業をサポートします。

“常にプロのファイナンサーとしてのサービスが期待できます”



PT Adaro Energy
Vice Chairman
Triputra Groupの創業者
Mr. T. P. Racmat

私は自動車部品製造業、石炭採掘業、運送会社等、さまざまな会社を経営していますが、ORIFはどの会社に対しても、それぞれのニーズに合致したファイナンスの提供をしています。1990年代からアジア通貨危機をはさんで継続してお付き合いしていますが、常にプロのファイナンサーとして何か新しい、先見性のあるサービスが期待できます。担当いただく従業員も営業からバックオフィスまでチームワークがとれており、企業文化としてトップから新入社員までコンプライアンスの高い意識が浸透していると感じます。ORIFの顧客ということで、インドネシア実業界での企業価値も高まっています。今後も、銀行がサポートできない分野で、付加価値を創造し続けていただきたいと思います。

How ORIX Is Creating Value **for Business Partners**

ビジネスパートナーとWin-Winの関係を築く

オリックスは、事業の「多角化、多国籍化」を展開するなかで、国内外においてさまざまなビジネスパートナーとともに事業に取り組んでいます。特に、過去数年の事業の拡大に伴い、オリックスの金融マーケットにおける評価が定着してきていることから、ビジネスパートナーとして選んでいただく機会が飛躍的に増加しています。これらは、オリックスの迅速かつ柔軟な事業展開やリスク管理能力などをご評価いただいたものだと考えています。

“オリックスは事業会社と金融機関の2つの性格を持ったユニークな会社です”



株式会社竹内製作所
代表取締役社長
竹内 明雄 様

当社グループは中国において、建設機械を製造し中国国内へ販売しています。この中国でのビジネスの課題の一つとして、販売代金の回収リスクがありました。この課題解決への対応として、オリックスの中国でのリース事業のノウハウや現地の人脈、情報収集力に期待して販売金融の提携先を選びました。

オリックスは事業会社と金融機関の2つの性格を持ったユニークな会社で、今後、当社グループが国内外において事業を拡大していくうえで、営業・財務の両面において多様なサービスを提供してくれることを期待しています。

ビジネスパートナーの海外事業展開を支援する

オリックスではアジアを中心に、海外の拠点ネットワークと蓄積した現地情報を活用し、ファイナンス機能だけでなく、コンサルティング機能やマッチング機能を提供することにより、全国各地の優良企業の海外事業展開を支援しています。例えば、中国市場における自社製品の販売で回収期間の長さにも悩んでいた建設機械メーカーでは、ORIX China Corporation (以下OCC)のリースを活用することにより回収を、早期にかつ安全に行えるようになりました。

建設機械レンタル会社が中国に進出するにあたっては、OCCの現地スタッフとオリックスのスタッフがフィジビリティ・スタディに同行し中国での会社設立を支援、事業パートナーとして一部出資も行いました。現在では、中国での資金調達のお手伝いを行っています。また、グループ各社と連携し、日本企業と海外企業のマッチングも行われており、今後ともビジネスパートナーの事業価値の向上に寄与できるよう支援していきます。

老舗旅館の再生により地域経済を活性化する

オリックス不動産では、2002年9月に支援を開始した、大分県別府温泉の「杉乃井ホテル」を皮切りに、福島県会津東山温泉の「御宿東鳳」、静岡県熱海温泉の「大月ホテル」と「ホテルミクラス」、宮城県鳴子温泉の「鳴子ホテル」と、現在5つの温泉旅館の再生に取り組んでいます。

オリックス不動産が支援を開始する際に最も重視している点は、「収益性の改善」です。全国各地の温泉地では、ほぼ例外なく価格の過当競争に巻き込まれています。そこへ、薄利多売戦略で乗り込んで行くと絶対に地元の支持は得られません。

オリックス不動産が推進する再生戦略は、業務を効率化し、筋肉質の経営体質をつくりあげたうえで、追加投資を実施し、付加価値を向上させることで収益性の改善を狙います。実際に「杉乃井ホテル」においては、支援前と比較し、客単価の20%アップに成功しました。オリックス不動産の支援旅館が、地元のプライスリーダーとなり多くのお客様に旅館にいただくことにより、地元の経済活性化に少しでも貢献するとともに、将来、オリックス不動産が経営から退いた後も各旅館が自立していけるよう、「家業から企業へ」を合言葉に、日々再生支援に取り組んでいます。

アジア地域の金融機関とともに成長する

オリックスは海外の事業展開において日系・非日系にかかわらず幅広く地元顧客層を開拓してきました。シンガポールで最初にリース会社を設立したのは、同国独立7年後の1972年ですが、これは当地の有力金融機関であるDBS銀行、UOB銀行との合併事業でした。ORIX Leasing Singapore Limitedは、合併パートナーと協力しつつ、シンガポールのリース事業の普及にとって重要な役割を担ってきました。自動車リース・レンタカー事業では、当地の有力な自動車販売会社であるタンチョングループとの合併事業として展開しています。

リース会社の設立以降、ビジネスパートナーは各々に事業モデルを進化させてきましたが、オリックスも歩調を合わせる形で事業の多角化の機会を得てきました。最近の例としてはUOBグループの不動産会社であるUOL社とのシンガポールでの高級コンドミニアム開発の共同事業があげられます。これは長年のパートナーであるUOBグループとの協調関係による大きな成果です。

“「多角化、多国籍化」を進めるパートナーとして期待しています”



UOB Group
Deputy Chairman and CEO
Mr. Wee Ee Cheong

UOBグループは現在18カ国に500を超える拠点網を有し、アジアにおける主要金融機関の一角を占めています。21世紀は、アジアが世界経済のなかで大きな役割を担うチャンスを提供しています。私は、この地域においてオリックスとUOBグループが互いに事業を拡充し、市場をリードしていくという共通の目標に向けて協力し合えることを光栄に思っています。

ビジネスパートナーとの海外投資案件事例

時期	ビジネスパートナー	案件
07. 2	UOL (UOBグループの不動産会社)	シンガポールの不動産開発事業に進出
07.10	ACAP (タイ証券取引所上場金融サービス会社)	タイの消費者金融会社への資本参加
08. 1	Federal Land (Metro Bank傘下の不動産開発会社)	フィリピンの不動産開発事業に進出
08. 2	IL&FS Investment Managers (IL&FSグループのベンチャーキャピタル投資会社)	インドの製鋼会社へ資本参加
08. 6	MAJID AL FUTTAIMグループ	UAEのカード事業への資本参加

“「家業から企業」への転換の手応えを感じています”

私ども「鳴子ホテル」は、2006年10月よりオリックス不動産の支援を受けています。当ホテルは創業から130年以上、5代にわたり一族による家族経営を続けていましたが、近年は個人のお客様を中心としたニーズの多様化が進み、気付けばホテルも日々変化していかなければならない状況に追い込まれていました。

オリックス不動産の支援開始後は毎日がチャレンジの連続で、日々「企業としての経営」を体験しています。また、今までできなかった追加投資により、ホテルに新たな魅力が加わったことで、お客様の喜ぶ顔が増え、従業員のやる気もあがっています。私どもでは今後も引き続き、多くの経営手法を勉強させてもらい、「家業から企業」へ着々と転換する手応えを感じています。



鳴子ホテル女将
高橋 弘美 様

How ORIX Is Creating Value **for Society**

新しい価値と環境の創造を目指し社会に貢献する

社会のためにオリックスとして何ができるのか、オリックスの企業理念にはその思いが込められています。事業を通じて社会に貢献することが基本であり、事業で実現できない分野については、オリックス社会貢献基金を通じて利益の一部を社会に還元するなどの取り組みを行っています。

彩の国資源循環工場内のゼロエミッション施設



オリックス資源循環は、環境リサイクル事業を自ら展開しており、国内最大級の廃棄物処理能力(1日当たり450トン)を有する「ゼロエミッション施設」を運営しています。この施設では最先端のリサイクルシステムにより、受け入れたさまざまな廃棄物を道路の路盤材の原料となるスラグや発電燃料としての合成ガスなどにすべてを再資源化しており、環境に配慮している企業や自治体からの高度なリサイクルニーズに応えています。

環境関連事業への取り組み

地球温暖化は人類共通の課題であり、環境への取り組みは企業の持続的な成長に影響を与える大きな要因となっています。オリックスでは、お客様の環境課題に応えるため、環境ビジネス専門セクターを中心に、さまざまなソリューションを提供しています。

オリックスの環境エネルギー部では、投融資を中心にファイナンス面から環境サービスを行い、オンサイト発電事業やESCO事業^{*1}、海外におけるクリーン開発メカニズム(CDM)関連事業^{*2}などを展開しています。オリックス環境は、リース終了物件処理で培ったノウハウを活用して、不用物の循環利用を促進する処理、リサイクルのご提案や、廃棄物ガバナンスの構築支援など、環境負荷低減を実現するサービスを提供しています。オリックス資源循環は、左コラムの事業以外にも既存の環境関連事業者との提携や、M&Aにより新たな施設で展開するとともに、自治体の廃棄物行政の手助けとなるようなソリューション型プロジェクトを推進していきます。

*1 ESCO(Energy Service Company)事業とは、工場やビルの省エネルギーに関する技術、設備、資金などを包括的に提供し、省エネルギーを実現する事業。

*2 クリーン開発メカニズム(CDM)とは、京都議定書で設定された温室効果ガス排出量の数値目標を設定している先進国が、数値目標のない途上国において、温室効果ガス削減プロジェクトを実施し、そこで得られた削減量を先進国がクレジットとして獲得し、自国の削減目標に充当できる仕組み。

グッドタイム リビング 千葉みなと／駅前通



オリックス不動産の開発プロジェクトが、2007年度グッドデザイン賞(新領域デザイン部門)を受賞しました。これは「サンクタス千葉みなとポートレジデンス」(分譲マンション)にオリックス・リビングが運営する「グッドタイムリビング 千葉みなと／駅前通」(有料老人ホーム)を併設させることで、住宅の価値を高めるというコンセプトが評価されたもので、日本ではまだ類を見ない都市型リタイアメントビレッジの一つの試みです。今後も高齢者向け住宅と一般分譲マンションとの複合開発を推進していきます。

オリックス不動産の開発プロジェクトが、2007年度グッドデザイン賞(新領域デザイン部門)を受賞しました。これは「サンクタス千葉

社会構造の変化に対応した住宅開発事業

オリックスは、1993年にマンション分譲事業を開始し、これまで着実に実績を積みあげてきました。住宅事業を若い人々から高齢者の方々まで安心して住むことのできる街づくりとして捉えて、開発を推進しています。

例えば、東武伊勢崎線「西新井」駅前の2棟(総戸数450戸)のマンション開発では、約11haの土地に医療・健康増進施設を誘致し、屋上緑化や汚染物質を分解するハイドロテクトタイルを外壁に使用するなどエコロジーにこだわりました。

また、左コラムの京葉線「千葉みなと」駅前では有料老人ホームと分譲マンションを併設し、2007年のグッドデザイン賞(新領域デザイン部門)を受賞しました。同様に、2008年秋には、港区芝浦で高齢者向けの賃貸住宅と介護付老人ホームを併設した施設を開業します。

オリックス不動産は、これまで商業施設や高齢者住宅を組み込んだ付加価値の高い街づくりを数多く手掛けてきました。今後も未来を見据え、社会構造の変化に対応した住宅開発事業に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

オリックス社会貢献基金

オリックスでは、事業活動だけでは社会に貢献できない分野について、継続的な支援を行うことを目的に、2006年4月に「オリックス社会貢献基金 ORIX Social Fund(理事長：宮内義彦)」を設立し、支援活動を行っています。当基金の主な活動方針は次のとおりです。

- 社会的にハンディキャップを持った方々への支援
- 将来を担う子ども・青少年たちの健全育成への支援
- 音楽、文化芸術、スポーツ振興への支援
- オリックスの役職員が自ら行っている社会貢献活動への支援

2008年3月期に実施された支援活動の一部をご紹介します。

- 全国の肢体不自由児施設に福祉車両を8台寄贈
 - 児童養護施設の子どもたちを、オリックス・パファローズの野球観戦、新江ノ島水族館、新日本フィルハーモニー交響楽団主催の親子コンサートや夏休みコンサートに招待
 - タイ、ブリーラム県の学校に、パソコンルーム、図書室、多目的ルームを建設
- また、ほかにも役職員が自ら行っているボランティア活動の支援として、知的障害者からなるバスケットボールチームの支援や、知的障害者施設での絵本読み聞かせなど、幅広く取り組んでいます。

タイの学校にオリックス教育センターを設立



国際協力支援の一環として、タイ東北地方のブリーラム県にあるバンホウセラーオ小・中学校に「オリックス教育センター」(図書室、パソコンルーム、多目的スペース)を建設し、2007年9月に竣工式典を開催しました。タイ東北地方は生活に余裕がない家庭が多く、学校にも十分な設備や教材が整っていないため、子どもたちは満足な教育を受けられない環境におかれています。そのような環境下でも、バンホウセラーオ校は、校長や教師、地域住民が一丸となって児童教育に熱心に取り組んでいることから、オリックスの海外児童支援の記念すべき第1校目に選定しました。また、今回は建物とともに図書・百科事典など約1,500冊、パソコン、プリンター5セット、通学用自転車20台などを寄贈しました。